



全

柳田文庫
文庫11
A1674



高見澤茂著述

文庫 11
A1674

世界歴史の緒

明治六年
七月官許

二書房 發兌

48-9040

010190529911



世界歴史緒卷一

傷

此書ハ上古人類の蕃殖ニ原
由ヲ探目今ヲ至ラズ迄凡ク千有餘
年其間沿革の自リ本トシテ大體
成攢簇ニ由ルルニ至リテ漸ク一島
カシメんニ至ルルニ至リテ漸ク一島
如ク興亡ニ由リテ漸ク一島ニ至ル



禮身は浩游繁穠の如きを亦繁
簡約成主とて遠意を去るを
まはら則句法は未結する所
と為り文意成條暢する所
以珠に西海の名詞を於る長
短唇舌其音を異し又一音を
省略し句局小裁す可らざる
ものあり況や予の迂拙の文

筆を以て加旃訂校の際句と
た多お也唯拙雅は苛正我
俟多已者若夫を之を體也
よ

紀元二千五百三十三年

九月

三驚迂史

書中總成ト一多々他の西石を
判明し其意を以て深淵の憂ひたの
らしむ其古傍りたのりめを以て
地名の係り古傍りたのりめを以て
標する其意を以て深淵の憂ひたの

三巻の復志るを

世界歴史の緒巻一

三鷹辻史著

アンセント
上古の史

抑我の棲息を

歴史 緒巻 一 天 續書 巻

此世界は遊星の
一は是は地球
如く種々の形を
因る云ふなり

水と土如の二部は
分ちし面は大約是
三千三百零七
分四百里餘あり

天
地
書
卷
一
二
三
四

分の三を海に、

一分を陸地とする。東

半球を、亞細亞

歐羅巴洲、亞非

理加洲、西半球を

亞米利加を、南北二

洲に分け、大

洲を、北極を、其

太古天地元闢

初々多架文昭開化

於今之世はは歴

一治亂は棟枕を

邈に遠く邇才ハ亞

細亞海を於西の陸

幼發拉的は上

北ろる當尼襪と極

天續書

亦二人農男女降

生一易典於園

住居一の後三人

の子故設於卦音

衣伯色斯如云云

子心次英子蕃術

世理年々世界人

乃源王母方有に

蘇子瞻氏一千五百余

如春秋茂修スプリングマラートミニ

及冠子霖雨の月

累ぬまきむし晴間系

皇洪水大陸少漲り

澄れ白波山岳を溼

没一人畜州本陽

然と絶たん如し

源一 卷一 新書

此時に諾亞の族

危き衣の舟の船

身成るる余解波

聞ひ漂ひ流西拉

利徳山の頂より

母船の着るる

洪水けりおさ

禮を湖へ流るる

天 新書

天
藏
書
屋
卷一
天
藏
書
屋

い
の
後
小
僧
列
日
肥

漁
姑
三
子
茂
如
め
一
族

を
と
牽
い
ん
年
遷
り
西

那
の
地
切
發
柱
多
河

の
名
近
よ
ま
ま
ま
の
作
成

定
め
生
業
を
学
び

より
後
と
世
ふ
人
類

漸
く
繁
榮
強
し
人
民
四

天
藏
書
屋

西史綱目 卷一

方に遷徙して多し

小數多の部族

成るは多し世界邦

國は權輿を是とす

他を以て乃ち四千

餘年の前亞細亞

は西に巴比倫及び

涇城は建生丁剛

歴史 緒 卷一 天 續 書 屋

の孫^{ハコ}能^ニ多^ク濃^ニ啾^シ始^ニ兒^ト
と^ニ此^ノ子^ヲ王^トし^テ其^ノ名^ヲ決^シテ
西^ノ部^ノの^ノ地^ノ方^ノを^シ治^ス國^ヲを
建^テし^テ其^ノ名^ヲ亞^シ西^シ里^シ亞^シ尾^ニ

尼^ニ微^シ城^ヲを^シ築^シ造^シ
と^ニ王^トた^リ其^ノ名^ヲ僧^トと^シ
子^ニに^テ亞^シ細^シ甫^シと^シ稱^ス
と^ニ其^ノ名^ヲ又^シ地^ノ中^ニ

歴代諸
卷一
十
天
續
書
卷

海の東に島ありて是に
國を建てて人民
を養ふ

海の東に島ありて是に國を建てて人民を養ふ

と云ふ國を建てて人民

風小航浦に業を起す

貿易を營ふ

めし是を此國新業

亞非利加海に

の諸島及至我創

しと列の字美居士

歴史者 卷一 十二 天嶺書屋

文庫
巻一
刑部書

文物ぶんぶつ繁多おほくんん一一結むす

人間にげん實用じやうよう好年こうねん相あひあ

月つき及およ大おほ教きやう満まん多た多た

於お本もと一一五ご三さんああれれ今いま

去年こぞ四よ五ご年ねんああにに一一

ああ本もと一一はは此こゝ他た是こゝ僅まじ

小野おの老らうのの存ぞん道どう一一

水みづ草くさ長なが字じ一一とと一一程ほど

天
續
書

新編 卷一 冊 雜書 庫

以り亞西里亞國を
後を西密拉迷后
の世に代り巴比倫
屋國伐平らげを

勢を以てお目いし兵強
く印交伐伐を
海せん師を起
し攻めたり印

新編 卷一 冊 雜書 庫

新編書屋

了戰少打負其辛

身每身其以之歸

幸一可成之之天

裁之之及國是

美屋士より一白の習

飯屋車踏を二群

らにアを之史を難

一降を為比克索

新編書屋

歴代通考 卷一 十六 天寶 音 歷

士也移之常與人乃

久一皇以土地を治

め一茂女を其時を

牧畜王女代と云り

次乃其の石を傳え

一是西索斯の黎

王一は是越中興

比君一は其後

歴代通考 卷一 十六 天寶 音 歷

撒羅王の代よ摩西
以色列人種を以
て本國迦南より
アムナレ太の金

試建つ大維多王の
子おと光教く不廷
を伐ち平らぐ武威
を四隣より輝らす

天啓書 卷一 第十七

卷一
天
續
書
卷一
天
續
書
卷一

右子撒門位を紹

ぎ物路散次有

建下駢福一寺院

灶叢美麗了成威

如く崇ふ灼る架馬

大國王聖巴西亞西

里亞王比多道を嫉

み師を起す成ひ

天
續
書
卷一

新編 卷一 十九

の城は恃みし西

里亞波留斯王の戦

ひはる宮殿寶器

に火は能く燃ゆる也

消し多る希羅羅

の庭園は草木

一も六十餘の秋

を茂れぬる間也

歴史者 卷一 十九 續書

日本書紀卷之二十一 天武天皇

比倫尼由振花之復

ひ起る馬太と花

攻入る西里亞國

王邀る事戦ひしが

三軍忽ちうも破

厚れ二國の兵に滅

おとる實り貫た

我國是神武の帝

日本書紀 卷之二十一 天武天皇

の上^む古^こ難^{なん}能^に巴^は比^ひ
沛^{はい}居^い由^ゆ以^い勢^{せい}是^し拿^な
布^ふ格^{かく}居^い按^{あん}王^{わう}の代^{だい}は
音^{おん}を^を憐^{れん}ん^んよ^よ兵^{へい}の^の強^{つよ}く

猶^{なほ}太^{たい}國^{こく}成^{せい}攻^{こう}め^め滅^{めつ}し
其^{その}國^{こく}民^{みん}の^の大^{だい}軍^{ぐん}を^を俘^{ふう}
其^{その}れ^れの^の糧^{りやう}を^を又^{また}飽^{あひ}
以^{もつ}其^{その}都^と府^ふ成^{せい}毀^{くわい}し

歴代諸
二十一
天
頃
三

歴代通考 卷一
天啓書屋

世^か之^{ざん}慙^かお^かし^か子^ち不^か悔^かあり

是^{これ}より^し繁^し春^し秋^し六十

余^の後^{のち}よ^いく^る季^の波^ハ郎^ハ

國^の塞^セ留^リ士^シ王^スの^ノ執^シハ

四^の法^ハ不^レ階^ハを^りる^る玉^をく^ま

輝^クた^ハ旦^ツる^る威^ハ武^ハを^りる

と^ハむ^る之^ノ所^ハに^ハと^ハる

所^ハに^ハ朽^レ木^ハ成^レ倒^ルす

歴代通考 卷一 二十三 天啓書屋

歴史綱目 卷一 天竺書屋

はるまじきをり終る

高美巴以倫庄城併

せんめのせ改め入

の安り勝まらる巴氏

倫比都城を要害

堅固しそ天竺翔

確地を照らす所のら

せはふら

天竺書屋 二十四

歴代志 卷一 天竺書屋

波那の居魯

士王施を術を有

李の如散粒的河

水

酒の斤漸

難は法は是と架

龍を以介泊查撒

王伐撃滅版

歴代志 卷一 天竺書屋

圖次 蕨と 糠のり

之は 新米 底 倦

を 征伐し 戦ひ 敗れ

増え ぬ 苛酷の 刑

に 處せ ざる 所 あり 其 際

と 多し 大 田 主 王 の 世

よ 至 極 希 臘 玉 成

保 せ ん 也 六 百 餘 艘

歴 史 著 卷 一 二 十 六 天 寶 曆 三

水戦艦五十隻余
の大军は右に標
柱を緯績を二成
より代りてつる也

戦艦より勝て朝
一交一兵をい
はせし米力泰底ら
一萬小五六也兵よ

陸軍
二七
廣

歴代通考 卷一 新編 歴代通考

支るる禮、遂に敗

軍、皮先、及解、澤

身、志、又、志、成、紹、業

二百五十万、師、始、大

軍、も、終、る、隆、二、名

五、山、と、れ、山、を、坦

け、海、成、埋、り、天、地

毛、の、り、勢、を、彰、也

歴代通考 卷一 新編 歴代通考 二十八

通達雅典兩國の
士卒素より銳に
し事、款如大軍校
六つて老を爲、王家

の浮沈是此時と死
死を極免防戦し
斯巴甫達達王方阿
屋在二十七人の山勢

二十

天
新
書
屋

城を以て七万余人を

慶こころ職ごころ一ひとをと牙はと特とく

唐たうは力ちから那なのの戦いくさ地ち

尸かばねを曝さらせしむる其

名を朽くち傳つたえり

波斯はし勢せいを甲か斐ひ入いる

と母はは傳つたのの小こ勢せいをと傳つたひ

敗たふれ木この榮はの風かぜ

天
高
書
屋

小友の如く物に也

一多讀の如く澤身

士王を幸うと云

漁の如く身成澤身

老の如く身を以て下が
幾多の如く害を及ぶ
遂に弱く國の存
於希穢玉の才役

厚 卷一 天 新 書 屋

にたつひ克うち一其

後其賢りこまお人た多おく

出殊いとよおるり伯利

克勤レス共和政府せいふの

主權しゆけん成なり握とり

李其國治こくにちりり權典けんてん

中興ちゆうきゆうの時とき也なり云いふ是こ

時とき程典しやうてん也なり也なり也なり

厚 卷一 三十二 天 新 書 屋

の二國を屋強大
亨帝獵中一頭
禮しつゝ送子競ふ風
成生より送子競ひの

端やうも廿二
安ま架の其間野
に冬戸は山を臥し
木血一不五時を

三十三
天
廣
書
三

歴史 卷一

奴毛ヌモのウカ物モノ子コけケのノ季キ

那美土ナミツ地チ人ヒト今イマをヲ新ニル

巴爾達バルダよりヨリ三十人サンジュウジン

水守ミヅカミ令ノリ為ナシ為ナシ志シをヲ是コノをヲ

支那シナ為ナシ為ナシのノババ是コノをヲ

三十サンジュウ僭人ケンジンの時トキ世ヨをヲ

この名を新ニルをヲ是コノをヲ

後斯羅ゴスラ西慕路セモロのノ

歴史 卷一 三十四

廣雅釋義 卷一 天部 新書

恢復くまひ之よ久く雅典やてん有あ

漸やく再興さいきう殷いん富ふ初しよ

ぬに君きみ了りやう是こゝ今いま与よ孝かう

二千二百餘にせんにひゃくにやくの春秋しゆんしゆを

経きやう昔むかし難がた經きやう羅馬らま

是こゝ阿あ尼に之の士し如に子こ孫そん

古ふる皇み羅ら葛か路ろ五ごをを并なら

祖そとと次ついで之の王わう位いを

三十五

歴史 卷一 天 新 書 屋

昇の馬ノ奔ン

比ヒ畧リユスこコ云ク多タ外ヘりリ天テン性セイ

仁ニ明メイのノ君キミよヨ一イチをヲ心シン哉カ

國クニ家カのノ治チ平ヘイにニ苦クしシ

法ホウ度ド哉カ心シンのノ百ヒヤク三サンをヲ

將マシ大ダイのノ多タ民ミン小コ利リ之シ海カイ

由ユ是シ之シをヲ理リ二ニ百ヒヤク餘ヨのノ者モノ

秋アキ茂モ過カをヲ位イ了リヤウ昇ノ

孫 史 緒 卷 一 五 十 六 天 新 書 屋

一 是 連 兩 癸 虎 王

二 公 子 為 惡 逆 母

三 道 水 天 好 子 子

薩 克 都 士 位 被 紹

癸 父 子 是 勝 子 年 乃

五 姓 終 不 國 民 の 怨

我 招 尊 犯 王 位

在 賤 多 不 理 公 是 子

海 天 緒 卷 一 五 十 八 天 四 四 四 四

歴史 第一 卷 一 天 皇 言 語

共和の政治と新

議政總裁に職成

夏初に冬國を治

りしに次第あり貴

族平民の両黨互に

相轉り由れ終る

年月を以て降る

皇靈を奉祀等に

三十八 續 書

歴代通考 卷一 三十一 新書 屋

攻セ侵ムスルルニハシテハカミ律ト

士スノハ軍グヲシテハ軍グ

制セスルハシテハ勢セハシテハ

兵ツ強ク良シ將ト英イ雄ユ

たらしむ出でずし玉ぎ勢せ

年ねんにし燦さんんん玉ぎ勢せ

遂すい小せう亞あ邦ほう利り加か如に此こ

所ところをしテハカミ律ト

歴代通考 卷一 三十一 新書 屋

歴代通考 卷一

新書

其兵を構え、争戦

於て二十二年、希

臘國を斯巴爾達

と流河野の國

戦争とて、寧ろ此年

月朔より、以巴

美諾屋達の英武

とて、徳伯斯遂に

歴代通考 卷一 四十一

歴代... 卷一... 新書

鉄心克己、勢力ひ全

國伐睥睨ハハを足ハシより

数年あり、マ馬

基セト頭ニヤ五フイ洲リ立マの勢ハひ

大なる海に遂に希

瀛ヤ之ハ後ハ入リ海ノ一時ハお

之を打魔マけ、マを

土地チ伐併ヘせ、ハ波ハ

歴代... 卷一... 新書

薩長吉之孫ケニス之孫

一少年之害セ也

玉忽ウチマち敵テキ之孫

太子アンキサドル磨山王ニ此時

二十歳ニ之孫

其名ニ我孫

兆ニか也ニ家ニ易ニ希

臘ニをウチ撃ニ志ニ之ニ一ニ進

天

歴史 卷一 一十三

美利波斯の侵入

首を斬るに及十二

萬彼を全波来たる

殊者唯一戦に陥れ

一時小火を不縦あり

六丁毛累世の宮殿

横岡瞬間に焼土と

なるる厲山王の勢ハ

歴史 卷一 一十三

歴代通考 卷一 新編 皇朝

風の向の海をめぐりて

更まに印イン度シヤ枝チ打ダ提テ

日ニ埃エ及フ支セ麻マ丹タン

歴アレキ山ヤン府ドル枝フ立リ長チ人ジン

其シ臣シ字シをシ凡バツ

常ツ村ツのノ版ハ圖ツをシ東ツ

以ヒ西シ亞ヤ弗フ利リ加カのノ東ツ

小コ岸クをシ踏ツまシてシ殊コトにシ

歴代通考 卷一 四十一 新編 皇朝

歴代通考 卷一 天 續 書 屋

廣くわん大たい字じ極きくめめ一いちの

歴山王れいざん殺ころしし後ご城じやう域い

内ない忽とつちち分ぶん裂れつ一いち三さん

十三じゅうさん之の將しやう領りやう者しや送しやう

に兵へい伐はく弄りやうびび多た多た孰じやく

一いち日にち七しち也や母ぼ也や也や也や也や也や

遂すい至し四し人にんの強きやう臣しん王わう者しや

今いま有あ邦こ土どを分ぶん領りやうせ

歴代通考 卷一 四十五 天 續 書 屋

其舊業伐復さん
親の將兵を奉
かゝ戦ふ毎不利少

多馬基頭圍の加撤
持多之伐後
が歳年と外と乱
才二夫と架敷十

此兵争より其算奪の

禍ひ絶ゆるを世

運漸く流季王赴

更一器靈水冠伐

被其然不羅馬

滅其於是より先産

了了得再公加雷達

額より兵伐接ハ決

三十七 天 備 書

歴史 卷一 天籟書屋

勝敗の穀河幸の

臣多如大将西以揚

英才雄畧の資を成

以之終ふ加雷逆歌

を攻破し、都を

焼く焼く、支那

を秦政周滅し

帝位を昇り始る

歴史 卷一 天籟書屋

歴史 卷一

と云ひ終り新島の

制を改め各城を鎮

豪傑を殺し者法

峻令伐制と書生

伐坑より多籍を焼

長さ一千五百里あり

高き四丈に長城伐

築たると蒙太古を築

四十九

しこの内より起る禍

は後二世皇帝の時

に致す劉邦項籍兵

伐おさし真の秦國

を攻め降し次い

そ後漢と楚と七十

餘度の戦ひあり

漢王項羽伐お滅

一國を號し之を漢と

云ふ羅馬を希臘

戎併せしよき國勢

倍益盛大と謂ひ英

雄豪傑輩出し以

大利由地の同盟國

大不迭を凌轍し

戦門一た先并し

歴代 卷一 五十一 天籟書屋

歴代文苑 卷一 天籟書屋

与後前後兵

亡なりびしものおまら三

十万人余是より内

乱止む年とく骨

肉互にくよあひお屠ころりらん教しん五

賊子並ぞくひ出でぐ威福

成運なりまらまげまらま

此後綏標ポと云いふ英

歴代文苑 卷一 五十二 天籟書屋

歴史 卷一 天竺書

旌いりある幸、兵ち成用ゆ

神しんの如く、向むかふ所、捷りく

ざる外、由りゆを異す

了十有五都府成

臨りんとみ、八はち百余ひやくご小せう乘じやう

細さい亞あの奔ほん都と十じゆ國こく南なん

時とき羅馬らまは強敵じやうてきと

勢せいひらけ、拮抗きつこうせ

五十三 天竺書

歴史 卷一

王統に綱標二戰

王統に綱標二戰

海軍を在る

東轉の事同時一人は

豪傑の能其を

徳の徳板を

才畧千古の軸

元六十年

歴史 卷一

よむ西を世に元

帥すい多た奥おく靈れい比ひ夫ふ

秋あき多た政せい取と主しゅ佛ぶつ西せい

白はく身しん義ぎ和わ榮えい英えい

吉きち利り等とうの諸しよ由ゆを署しよ

一いつ首くび伐はく斬ざん大だい女にょ上じやう一いつ百ひゃく

萬まん傳でん凡ぼん二に百ひゃく萬まん威い

名な雷らい如にょ如にょ之しをを統とうハ

五十五

歴史 卷一 天 兼 書 屋

河をさぐる舟兩艘の争

の争ひを争ひに争ひを争ひ

權は決して相凌ぎたはる

に兵を擧ぐしつゝの快

撒おちしや戦ひ捷ち

北の戦は進み細標を

埃及より下り殺しぬる

是より総標の戦ひ

歴史 卷一 五十六 天 兼 書 屋

歴史 文 緒 卷一 天 録 書 屋

隣^の事^不 巧^くお人^こ心^こを^を 籠^こ結^け

を^ま、将^まふ王^ま位^まを^を 踐^ふ

んと^つ才^つ、勇^つは^つ不^つ靈^つ也^つ

士^ス加^カ西^シ新^シ著^シ、如^ス之^ス

諫^セ拔^サの專^{せん}横^{ごう}試^し、疾^{しつ}

み^ひ為^え竊^{せき}よ相^{あい}圖^てり^り 絶^{てつ}

元^{げん}四^し十^{じゅう}二^に年^{ねん}前^{ぜん}、終^{つひ}

議^ぎ事^じ堂^{どう}より^{より} 殺^{ころ}す

歴史 文 緒 卷一 五十七 天 録 書 屋

カギ、^カ邦^{ハツ}を^ク守^ルる^ニ國^{クニ}の^チ軌^ヲ

この^ニ馬^バ克^ク安^ア多^タ屋^ニ

屋^ヤ火^カ唯^タ、^グ國^{クニ}の^チ大^{ダイ}權^{ケン}

我^ガ者^ノも^モ握^ヲ生^シま^スる^ニは^ハた^スる^ニ

トリ^トユム^ムウ^ウイ^イレ^レト^トの^ノ政^{セイ}

治^チま^まる^るふ^ふ、^ハ歲^{サイ}程^{テイ}も^モな^な

多^タあ^あ程^{テイ}の^ノ權^{ケン}は^ハた^た多^タふ^ふ

戦^{セン}闘^{トウ}起^キり、^ア安^{アン}多^タ屋^ニ

遂に彼を以て埃及を

王に自殺せしめ是を

李羅馬に大權を委

く屋を唯のまに帰

し瑪魯古士都帝と

云ふに理を帝國に

權を委し其の邦

内請を以て是を

極盛の時と云ふ領

土は歐羅巴海如過

すは架亞細亞亞非

利加は跨るを区域の

廣き一萬里、當時

羅了府の結構、周

圍凡五十餘里、城郭

高き、空を蔽ふ、六

海防
文
編
卷一
天
皇
御
紀
六十二

國を以て年茂、然元帝

一のこし、こ、し、と、ね、す、に、我、を

無すい仁よし帝の三十年

漢カの平ヘ帝ノ元チ年ノに

今イマ、今、故、去、る、事、ハ

八百七十三年の者

七シ、七、年、に、十、二

采サ、入、給、十、字、加、ふ

天
皇
御
紀
六十二
天
皇
御
紀

歴史 卷一

傳^いと^まは^しる^の刑^{けい}を^よ変^へ

せ^しる^の其^{その}名^なと^して^こ

を^あて^ます^の教^{きょう}法^{ぽう}を^あま^りと^して^こ

小^ひ握^りり^の羅^ら馬^まを

漢^{わん}古^こ士^し都^とよ^りま^じに^つて^こ

帝^{てい}位^いを^あが^りし^るは^し

茅^{ちやう}伯^{はく}魯^ろと^して^こ

帝^{てい}乃^{すなは}ち^は刑^{けい}を^よ変^へ

歴史 卷一 六十三 天 籙 書 卷

勢一七此帝一の時

控一八征伐

位を踐む帝一八

抵母道一八下

弒一八或一八亦一八

母一八伏一八安一八

尼羅一八一八帝一八妻

伐殺一八母一八后一八

新書庫

刃を加へて是例

少くも久悪逆子孫

紀元二百年一丈

那を三國の創者

魏ゴの曹操ソウ吳ゴの孫權ソン

おまへは赤壁セキに戦

ひししの魏ゴは軍ぐん遂つひ小

敗績さいせり、後教のち有あり

歴史 著者 卷一 六十五 天籟書庫

新書

伐史シロクの玄ゲン

徳トク帝テイよりシロ昇ノボりサツ諸葛シロカ

孔明コウメイ至イ相サウをゼウ三分サンブン

鼎テイ足ソクの時トキとト少降シウカウ

至シ子シ三サン百ヒャク十ジュウ一イチ年ネン羅ラ

馬バはハ帝テイ孔子コウジ旦タン丁テイ

親シンらラ邪ジャ蘇ソ教コウをソ号ゴウ

奉ホウ一イチ林シン不フ令レイ我ガ

天 續書

歴代通考 卷一 新書屋

弛ゆるめのびは教頓ととふ

延ま蔓まんせり、辱つひを京みやこ

成なり車くるまを後うつ、是こゝを

君子こうんす旦たん丁てい府ふと互あひ

四十余よそりの春はると

秋あきに我われ誰たれに後あと

亞細あしや互あひ西せい部ぶは各おのづか

地ちを多おほく人ひと民たみ送おく了り

歴代通考 卷一 新書屋

歴史 卷一 新書

居我遷一歐亞巴

洲の人民も打撃

と互に遷徙して争

亂其形如沸之如

之様字人民の遷徙

こと今も世界大變革

如眼目なる程に

的阿徳蘇斯帝の

歴史 卷一 新書

時、孔子二人、成、東西

を分ち、之を封す

け、東の帝を奉

獵り、西細亞、東林

利加の地、成領す

孔子曰、丁子、於世を

西の帝、其、利

也、日、耳、曼、佛、西

英吉利、西班牙及
 比亞弗利加の北、
 伐大畧版圖、
 羅馬、都、

か、
 類、
 出、
 酋長、

兵杖支ゆり力を

善美を盡せし

府も忽ち兵燹を

被りて大都亦

寧ろ城と化し楯を
巢くは燕の唯速
近し死を免るに
葉澹は秋を

此頃漢英生々の佛郎
 西島法人の送了の民
 伐攻め平く争いおの
 之國をより建了

多由英吉利國政
 今や安名所置
 克西江民より此仁
 郎西國を初め

佛朗哥^フと野^ラ民^ニ
たの者^ヲありきり西羅
馬^ハ是^レを^シて^ハ我^ノ
國^ニと^シて^ハ我^ノ

雄^ウ畧^カ帝^ノの時^ニ
今^ハと^シて^ハ一^千三^百と^シて^ハ
十七年^ハ如^ク前^ニあり
是^レは^ハ上^古の^ハ沿革^ト

天^ノ黄^帝書^ノ卷^ノ一^ノ上^ノ

歴史
紀伊國屋源兵衛
巻一

三三秘之けり

世界歴史の緒巻一終

発兌

東京室町三丁目

紀伊國屋源兵衛

武野縣信濃國上水郡朝陽村大字屋為字組

持主

滝澤喜代作

明治八年七月十二日之末

